

特集

いま
現在、必要とされている管理職とは
～ワーク・ライフ・バランスを実現するために～

西東京市男女平等参画情報誌

パリテ

2015.1
Vol.14

佐藤 博樹さん

(中央大学大学院戦略経営研究科教授)



contents

- p4 パリテだより
「平成 26 年度 センター事業報告」
- p6 パリテ INFORMATION 「第 7 回パリテまつり」
- p7 パリテ・ライブラリー
ステキに男女平等参画！ in 西東京
「イクジイ」編
- p8 西東京市男女平等推進センター「パリテ」
登録団体紹介「J女性会議」

西東京市男女平等推進センター
パリテ

男女 平等参画社会は、男女が共に
様々な分野で活躍できる社会です。
仕事も生活も楽しめる、
そんなライフスタイルについて
考えてみませんか。

現在、必要とされている管理職とは

ワーク・ライフ・バランスを実現するために

子育て、結婚、介護——仕事以外でやりたいこと・やらなければならないことを抱えて働く社員が増えている中、そうした社員のけん引役である管理職は今後どうあるべきなのか？ 社会学が専門で、人事管理やワーク・ライフ・バランス(以下「WLB」)に詳しい中央大学大学院の佐藤博樹教授に聞いた。

なぜ今「WLB管理職」なのか

◆これからの管理職とは

管理職とは本来、任務達成に向けて何をすべきかを考え、計画を立て、部下に計画実行に必要な仕事を割り振り、内容を理解させ、能力が足りなければ支援する役目で、何より重要なのは、部下が意欲的に仕事に取り組めるようにすることだ。

これまでは、管理職が「職場の中」だけを注視し、部下の動向を考え、仕事ぶりを評価し、働き易くなるよう配慮していれば、部下は意欲的に働いてくれた。が、今はそれだけでは意欲的に働けない社員が増えていく。「子育ても大切にしたい」「結婚

に向け、パートナーとの時間をしっかり持ちたい」、または「自身の能力向上のため夜間大学院に通いたい」など、仕事以外でやりたいことがある社員だ。

要するに、部下の「職場外」での活動等も理解し支援する上司の下でないと、部下は意欲的に働けないという時代になってきた。

つまり、これからの管理職に求められるのは、従来の役割に加え、部下のWLBの実現を支援するマネジメント力、すなわち「WLB管理職」としての力なのだ。

◆管理職世代も「介護」に直面

「介護」は職場での立場に関係なく大きな問題だ。そろそろ管理職に就く40代後半〜50代となれば、親がいの限り、必ず「親の介護」に直面する。

「仕事と介護の両立」は相当難しいのが実態だ。例えば、ケアマネジャーとの相談に半日あるいは全日要するし、親が突然倒れて駆けつけなければならぬ事態も出てくるかもしれない。そうした場合に備え、管理職だけでなく基幹的立場にある社員なら誰でも常に自分の代りが立てられるようにしておく必要がある。たしかに介護休業制度はある。が、本来これは親を直接自分で介護するための制度ではない。例えば介護に要する期間は平均4、5年、要10年



Profile
佐藤 博樹(さとうひろき) 大学院教授
1981年 一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位修得退学。1981年 雇用職業総合研究所(現労働政策研究・研修機構)研究員。1983年 法政大学大原社会問題研究所助教授。1991年 法政大学社会科学研究所教授。1996年 東京大学社会科学研究所教授。2014年 中央大学大学院戦略経営研究科教授
専門は人的資源管理。兼職として、内閣府の男女共同参画会議議員やワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議委員など。著書として、『男性の育児休業』(共著、中公新書)など。

以上が全体の12%といわれている中で、10年以上休業を取れるなどということはありません。仕事と介護の両立の準備をするための休業制度である。

仕事と介護の両立に向け必要なのは、自分で親を介護することではなく、親が必要な介護支援を受けられること、つまり自らの働き方・生き方をマネジメントすることだ。要するにWLBとは、管理職に

としては「リスクマネジメント」に他ならない。今後、管理職は自分も含め社員一人ひとりのWLBが大切だと社

誰もが意欲的に働ける環境へ

◆仕事一筋世代が

WLB管理職になるために

これまで「仕事一筋」で来た社員をWLB管理職にするため、例えば私の研修会では、「親の介護」に直面した部長職とか共働き夫婦に「子どもができた」という例を取り上げ、「当事者は今後どうしたらよいか」を議論させ、解決プランを出してもらうことにしている。ポイントは、それまで「仕事一筋」だった社員が、職場は同じなのに「仕事以外」に自分として抱うべき課題が出たことで「今の職場では意欲的に働けなくなる」という点だ。「自分だったらどうするか?」を考えるのが狙いだ。

こうした研修を通じWLB管理職の必要性を全社的に理解させ、同時にこのプランを実行してほしい。

内に広めると同時に、部下のさまざまなケースに対応できるようにリスクマネジメントが必要だ。

で重要なのは実施後3カ月のフォローと、1、2年後にも確認しているかどうかをチェックすることだ。

社員すべてが意欲的に働けるようにするのが最終目的。だから会社としては「一人ひとりのWLBが重要」と認識するのは無論で、今後は、部下のWLBの実現に取り組んだWLB管理職を評価する仕組みづくりも必要だろう。

◆WLB管理職として何をすべきか

では、具体的にWLB管理職は職場で何をしたらよいか。

有効なのは、管理職自身が自分の仕事に時間的制約を設け、より効率的に働くようにすること。例えば「週2日は必ずノー残業デーとする」と自ら労働時間を限れば、仕事に優先順位が付き、過剰品質などといった無駄もなくなる。

また、仕事上のリスク回避の観点からも、自分の仕事の7割ほどは他の社員がカバーできるように、常時情報共有は確実にしておくべきだ。

WLBによるメリットとは

◆WLBは実は生活改革

社員のWLBを実現することは、会社・個人双方にメリットがある。例えば、仕事一筋社員であれば、与えられた仕事をクリアすれば評価され、昇進へと、働く意欲が上がった。が、今の社員は、従来に加え、仕事以外の部分を上司あるいは会社から理解され支援してもらおうとすることで仕事への意欲も高まり、より効率的に働くようになる。結果、職場全体の生産性が高くなる。

仕事と介護を抱えている社員であれば効果は特に大きい。仕事以外に「自分の居場所を確保しWLBが実現できれば、日々のストレスも解消され、生活が楽しめるようになるからだ。ひいては豊かな老後を送ることもつながるはずだ。

私の研究によると、定年後に豊かな生活を送っている人とは、30・40代の頃に仕事以外でやりたいことや、自分の居場所があった人たちだ。

例えば、海外では「子どもとの時間を長くしよう」と、朝早く家を出

て午後4時には帰宅という社員もいるし、今年の夏季休暇を過す「即」来夏は他国で1カ月過ごす」を目指して懸命に働く社員もいる。生活にやりたいことがあるから、より効率的に仕事に取り組めるのだ。

対して日本では、まだまだ仕事以外に「自分の居場所を確保できない人が多く、それらを充実させることが実は豊かな生活につながる」と考える社員は少ない。社内の上層階級の生産性が低いといわれるのはそのためだ。

そういう意味では、WLBを実現するとは、単に働き方を変えようというのではなく、実は「生活改革」なのだ。この意識改革こそが一番重要なのだ。



佐藤先生がWLBな生活のために実践しているコツ!

- ◆2カ月に1回は旅行に! (仕事以外の場を楽しむ)
⇒旅行会社と年間合計21日利用可能な契約を結んでいて、2カ月に1回は旅行に出掛けている。
- ◆チケットは前売りで! (自らに制約を課す)
⇒美術館等の入場券は前売りで買ってしまうので、必ず行くようになる。
- ◆残業は「月8日」を厳守! 常にチェックを!(徹底した自己管理)
⇒「午後6時半以降の残業は月に8日以内」厳守へ、カレンダーに赤字で8日だけ〇をつけて、常にチェック。仮に当月分が1つ増え〇が9つとなったら次の月を必ず7つにする。

介護も仕事もどちらも大事!!



「パリティだより」では、パリティからの事業報告と、今後行われる予定の事業をご案内します。

平成26年度 センター事業報告

共通講座(4回連続)

アラ還世代の男塾 ～さらなる自分を見つめて～

人生経験を積んだ定年退職後の男性たちが、孤立することなく、地域活動の楽しさ、意義深さを学ぶ4回連続講座を開催しました。

前半2回は講義と市内散策で地元の歴史の魅力に触れ、第3回はうどん作り挑戦。第4回は地域に出るこの大切さや、おひとりさまであってもひとりぼっちではない生き方について学び、退職後の人生をさらに楽しむためのヒントがたくさん見つけられました。



日程	内容	講師	参加者
第1回 6月17日(火)	知ってほしい! これからを過ごす地元、田無・保谷の歴史	近辻喜一さん(西東京市文化財保護審議会委員ほか)	延べ99名
第2回 6月24日(火)	講師と巡る宿場町たなし～旧名主・下田家、総持寺、田無神社	西東京市地域活動栄養士会	
第3回 7月8日(火)	地域の食文化を知ろう～つけ汁うどんに挑戦～	土堤内昭雄さん(ニッセイ基礎研究所社会研究部主任研究員)	
第4回 7月15日(火)	“おひとりさまシニア”のライフプラン		

基礎講座(3回連続)

わたしの磨き方 レッスン



日程	内容	講師	参加者
第1回 10月2日(木)	いま、考えてみよう・話してみよう“わたし”のこと	石崎節子さん(国際女性の地位協会理事、西東京市男女平等参画推進委員会委員)	延べ53名
第2回 10月9日(木)	知って得する魔法の杖～学んで活かそう「世界女性の宝」～		
第3回 10月24日(金)	輝く“明日のわたし”をイメージしよう		

自立支援講座(3回連続)

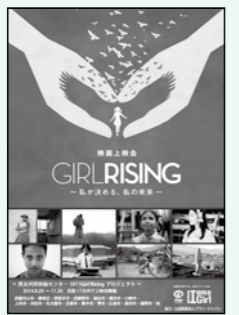
誰もが自分らしく生きるために ～こころもからだも大切に～

日程	内容	講師	参加者
第1回 10月20日(月)	「タッピングタッチ」～こころとからだのリラクゼーション～	更科幸一さん(タッピングタッチインストラクター)	延べ42名
第2回 11月7日(金)	「これだけは知っておきたい法律知識」～夫婦と子どもの問題をめぐって～	打越さく良さん(弁護士)	
第3回 11月26日(水)	DV・モラルハラスメントによる被害者の心身と子どもへの影響	本田りえさん(臨床心理士)	

上映会

GIRL RISING ～私が決める、私の未来～

「女性」「子ども」の複合差別を受ける女性の教育機会の保障と社会的地位向上をめざして定められた国際カールスルーエにおいて、発展途上国の女性の抱える問題を分かりやすく提起した秀逸な作品でした。【参加者】19名



10月11日(土)

週間事業

「男女共同参画週間(6月23日～29日)」に、パネル展(6月23日(月)～29日(日))と講演会(28日(土))を実施しました。

講演会 就職、結婚、妊娠 女性のためのライフプランニング

【講師】白河桃子さん(少子化ジャーナリスト、作家、相模女子大客員教授) 【参加者】21名
女性が働く覚悟をすれば、様々な社会問題が解決するという明快なお話を伺いました。

◆パネル展 パネルテーマ「21世紀の女性と仕事」 女性の就労保障の歴史が内容豊富

共通講座

夏休み企画 パパとダンボール 電車を作ろう



【講師】村上誠さん、安藤彰悟さん、陰山元希さん(フアザリング・ジャパン千葉支部) 【参加者】29名
ダンボールが、大好きな電車に变身! 素敵な飾りつけもできて、子どもたちも大満足の様子。電車トッコで子どもが遊んでいるうちに、パパたちの輪では、子育ての話に盛り上がった1日でした。

基礎講座

気持ちを楽にする ストレス対処法



【講師】伊藤厚子さん(臨床心理士、メンタルサポート・アレーズ代表) 【参加者】40名
はじめは認知行動療法という、ちょっと難しそうな気配に一人一人の表情は硬かったようですが、講座が進み、自分の悩みやストレスを多くの参加の方たちと共有することができて、最後は柔らかな表情で帰られたのが印象的でした。

週間事業

11月12日(水)～25日(火)

女性に対する暴力をなくす運動 運動週間事業

女性に対する暴力をなくす運動週間(11月12日(水)～25日(火))に各種事業を実施しました。

日程	内容	講師	参加者
11月22日(土)	講演会「貧困と暴力」 貧困と暴力の背景に何かがあるのか。NHK報道ディレクターが語る。	新井直之さん(NHK報道ディレクター)	30名
11月12日(水)～25日(火)	パープルリボン・プロジェクト 女性への暴力反対の思いを込めてパープルリボン・タペストリーのパーツづくりと、タペストリーの展示をします。	パープルリボン・プロジェクトをすすめる会との協働	21名
	パネル展示 (タイトル「デートDV」)	-	多数

基礎講座

第1回 12月1日(月) 第2回 平成27年 1月10日(土)

てしごとカフェ(2回講座)

【講師】齋藤美樹さん(工作・手芸教室主宰)



第1回はハニカムボールというクラフト、第2回はニットの雪柄コースター作りを体験し、モノづくりの達成感と少人数でおしゃべりをしながら、ストレス解消に役立てました。

共通講座

男子校・女子校って どんなどころ



【講師】おおたとしまささん(育児・教育ジャーナリスト) 男子校・女子校の特色を生かした教育的効果や、男女平等感の育成までを詳しく解説しました。

西東京市男女平等推進センター「パリテ」登録団体紹介

「女性会議」

女性会議は、1962年に結成(当時は日本婦人会議)されました。平和憲法を暮らしに生かし、差別のない社会をつくるために、全国各地の女性たちが集い、活動しています。

「アイ」には、私、女の目、友愛の意味が込められています。



女性会議50周年を祝う集い(2012年、東京都本部)

活動の柱は

- ◆女も男も、すべての人が人間らしく働き続けるために
- ◆女性の人権を確立し、ジェンダー平等社会をつくる
- ◆子どもや、マイノリティの人権を守る
- ◆女性の政治参加で社会を変える
- ◆あらゆる女性への暴力をなくす
- ◆高齢期を安心して生きるために
- ◆せっけん運動から環境問題、脱原発で持続可能な社会へ
- ◆武力に頼らない平和な世界をつくる

女性たちをつなぐ、
女性誌「女のしんぶん」を月2回
発行しています。



画・丸木 俊

平和運動に貢献された丸木俊さんが、日本婦人会議結成15周年の時に贈ってくださった墨絵。「会に集う女性たち」をイメージして描いていただきました。

西東京市では

合成洗剤で河川が泡だらけになった時、「公害のないせつけんを使おう」とせつけんを広める運動を始めました。また、「子どもたちに安全・安心な食べ物を」と共同購入会をつくったほか、女性の市議会議員を送り出し、子どもや女性のための政策実現に向けての活動なども続けてきました。私たちは、70年続いた戦争をしない国、戦争のできない国、平和な国を逆戻りさせたくありません。そして、女性が自立して自分らしく生きる力をつけ、性による差別のない社会をつくっていくために、今後も活動を続けて行きます。

【問い合わせ先】

女性会議保谷支部
☎042-467-8591(神島)



反原発集会に参加しました(2012年)

団体登録

(男女平等推進係)

男女平等参画社会の実現をめざして活動するグループを支援します。団体登録をしていただくと、次のとおり施設をご利用いただけます。

活動室

- グループ活動や、活動の際の保育室としてご利用いただけます。(無料)
- 登録団体は2カ月前(その他の方は1カ月前)から予約申し込みができます。
- 利用時間 午前9時～午後10時

団体連絡箱

グループで作成したチラシなどを配布できるロッカーです。申請をしていただくと、ご利用いただけます。

愛称「パリテ」とは…
フランス語で“平等な”という意味です。

- ◆企画・編集◆ 男女平等推進センター企画運営委員会
- ◆発行◆ 西東京市生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課 千202-0005 西東京市住吉町6-15-6 住吉会館内 ☎042-439-0075

- ◆企画運営委員会委員◆ 加藤真理、齋藤博、齋藤三枝子、白井香澄、田崎吉則、長坂悠、本橋里実、吉田朋子
- ◆制作◆ 株式会社ドゥ・アーバン

▶ご意見、ご感想をお寄せください。情報誌「パリテ」は西東京市のホームページからもご覧いただけます。
<http://www.city.nishitokyo.lg.jp>

Access



Pari-te

パリテ
2015.1
Vol.14

編集後記

消費税の値上げが先送りになりました。市民の穏やかな暮らしに影を落とす「格差と貧困」「貧困と暴力」。いつまでも消えない苦しい事件がある度に、日本の政治が国民を守る政治であってほしいと願います。

加藤真理

地域デビュー二年目。定年後、公民館等の講座に参加し、少子高齢化の問題・介護の重要性に関心が高まり、老若男女皆が分担していくことが必要と感じています。WLBという理想に向け自分達は何ができるのか、考えさせられました。

齋藤博

特集記事の佐藤先生のお話の中で、「イクボス」に限らずこれからは介護や大学院通学・地域活動など個人生活と仕事の両立を支援できるボスが求められるとうかがい、社会がいま大きく変化していることを再確認!

白井香澄

今回は『必要とされている管理職とは』というテーマですが、やっぱり成長してる会社にはこんな管理職が必要であるなど編集を進めながら共感していました。将来は自分で事業を立ち上げたい夢もあるので、参考にできればと思います。

長坂悠